



羽合小学校 学校通信

平成26年5月22日 NO, 29

おいしいものは飽きる！

私が学生の頃のごちそうは「カツ丼」でした。「天井」は学生の私にとっては手が届かないものでした。お金のない学生にとっては、カツ丼もいつでも食べられるわけではなく、たまに食べるごちそうでした。3食カツ丼でもいいなあなんて思うこともありました。

でも・・・3食食べ続けたらどうでしょう。飽きてしまって、もう、カツ丼なんて見たくない、もっとおいしい物はないか、他を捜すようになってしまったでしょう。それまでカツ丼を食べる度に感じていた幸せは瞬く間に苦痛に変わってしまいます。

人は刺激を求めるものです。刺激には心地よいプラスの刺激と、それとは逆のマイナスの刺激があります。ごちそうというプラスの刺激もだんだん慣れて飽きてくると苦痛に変わります。カツ丼で感じた幸せはどこかに消え、また新たなプラスの刺激を求めなければならないようになります。時々食べるからいいんですね。幸せは時々でよい。そう思います。心地よいからといって求めすぎることなく、少し我慢するといつまでも幸せを感じ続けることができるものです。

いっきのテレビゲームも同じで、楽しくてのめり込んだゲームもいずれ飽きて、もっとも

っとおもしろいゲームがないか捜し集めまくる、そんな子どもたちをよく見たものです。今の子どもたちにとっての「カツ丼」は何なのでしょう。

マイナスの刺激には、例えば勉強などが当てはまるかも知れません。「家ではひとつも勉強しません」などという話は良く耳にするものです。

しかし、勉強も刺激であるならだんだん慣れてきます。最初は苦痛でも、ちょっと我慢して続けていくと苦痛が和らぎ、問題が解けるようになり、授業がわかるようになっていくかもしれません。少し我慢するとできることが増えていきます。人には苦手な物があるものです。その苦手を克服していくことができると、新しい喜びを手にすることができるかもしれません。

水泳が苦手で泳げなかった子どもたちが、ひとシーズン頑張って泳げるようになったような話は枚挙にいとまがありません。

わたしたちが子どもたちの力を伸ばそうとするとき、子どもたちにとってプラスの刺激もマイナスの刺激も「ちょっと我慢」させることが力を伸ばすコツなのではないかと思います。

何を我慢するかについては整理しなければいけませんが、我慢することについてみんなで考えていかなければなりません。

【運動会】

いよいよ運動会、天気も心配無いようです。明日は準備にとりかかります。高学年の子どもたちが準備を行います。運動会への取り組みを通じて、一層たくましくなってきたなあと感じます。努力や頑張りが自信を育て、育った自信が態度に表れます。努力をすればするほど態度は謙虚になっていきます。支えて下さるまわりの人が見えてくるからです。

羽合小学校 寺谷英則